

## 北海道胆振東部地震 支援経緯・報告

9月6日(水)－9日(日)

9月6日(水)午前3時8分に北海道で震度7の大きな地震が起こりました。早朝から小西陽祐北海教区幹事、私の実家の両親(札幌市中央区在住)と連絡を取り合い、北海道各地の状況把握に努めました。小西幹事、高濱心吾先生(札幌元町教会)を中心に北海教区各所の状況把握が行われ、また被害の大きかった厚真町の避難所の様子が伝えられました。8日の時点で厚真町では避難所に1100人が避難していたようですが支援物資が1つも届いていない状況でした。そこで、厚真町の避難所で必要とする物を高濱先生が聞き取り、それらの物資を群馬で購入し、9日(日)の夜に仙台からフェリーに乗り、北海道入りすることにしました。できるだけ支援物資を積んで行きたいということで桐生でハイエース(椅子が無い物をたくさん運べるタイプ)をレンタルし、講壇交換礼拝後に群馬を出発し、仙台に向かい、仙台港でSCFの野田沢主事と一緒に太平洋フェリーに乗り込みました。SCFの野田主事もレンタカーに支援物資を運んで来られました。フェリーの中は被災地に行くだろう自衛隊や警察の方々も多く乗船していました。

10日(月)の11時に苫小牧港に到着し、苫小牧港で待っていてくださった高濱心吾先生、井石彰先生(苫小牧弥生教会)、石田歩先生(厚別教会)、斎藤開先生(美馬牛福音伝道所)と合流し、苫小牧弥生教会へ移動しました。そこで野田主事のレンタカーの荷物を斎藤先生が乗ってきたトラックに積み替え、厚真町役場に向かいました。苫小牧から厚真町までは車で約1時間かかります。途中、小西陽祐教区幹事も合流しました。厚真町役場に着き、斎藤先生のトラックの支援物資をおろし、支援物資を置くスペースにどんどん支援物資を置いて行きました。同日から支援物資が届き始めたみたいで、厚真町役場の方が仕分け作業に走り回っておられました。また、ボランティアの受付も同日から始まった様子でしたが、どのようなボランティア内容なのかはわかりません。かなり多くの(北海道内からの)自衛隊の方々が役場周辺に来ており、仮設トイレや仮設風呂などを設置しておられました。また、厚真町はあと1ヶ月は断水が続くとのことで、給水所も設置されていました。役場の方に話を聞くと、必要な物資は集まりつつあるとのことでした。が、この時点で下着が足りていないとのことでした。3、4日洗濯物をためて、近くの町のコインランドリーまでバスを出すなど計画があるようですが、替えの下着や肌着が不足しているようです。それらの下着や肌着は北海教区内で呼びかけ、集めておられます。また、少しずつ寒くなって来ているので、羽織れる物も必要とのことでした。また、シェービングクリーム、リップクリーム、肌に塗るクリーム、コスメセットなどが不足しているとのことで、すぐに北海教区のブログにそれらの物資が必要だと呼びかけていました。厚真町では1100人が避難されているので必要となる物資はこれからも日々変わっていくだろう、とのことでした。また、厚真町には物資が届き

始めましたが、まわりのむかわ町や穂別町、安平町などには物資があまり届いていないかもしれない、とのことだったので、三浦のハイエースの支援物資は下ろさずに、むかわ町役場へ向かいました。厚真町からむかわ町へは1時間ちょっとかかります。むかわ町役場に行くと自衛隊の方々が少しおられました、あまり人は多くありませんでした。むかわ町役場へ避難されている人は130名ほどだそうです。必要とされている支援物資を下ろしてむかわ町を後にしました。小西幹事がむかわ町の近くの平取町の萱野茂二風谷アイヌ資料館で復旧活動をされていた三浦忠雄先生（留萌宮園教会）に連絡をすると、少し人手がいるとのことだったので、むかわ町から平取町へ移動しました。萱野茂二風谷アイヌ資料館で地震のために展示用のガラスのケースが2つ倒れて割れたため、少し離れた別の建物から大きなガラスのケースを2つ軽トラックで運ぶお手伝いをさせていただきました。お手伝いを終え、平取町から札幌にあるクリスチャンセンターに移動しました。道中、道路のひび割れや段差が多くあり、今回の地震の大きさを感じました。また、今回の地震による土砂災害により不明となっていた最後のお1人が同日発見され、胆振東部地震による死者は41人となりました。亡くなられたおひとりおひとりに主の平安と残された方々に大きな慰めが与えられますようにと祈りたいと思います。

19時頃、北海教区事務所のあるクリスチャンセンターに到着し、被災地をまわったメンバーと北海教区三役（久世そらち先生、原和人先生、木村拓己先生）、胆振東部地震対策会議のメンバーで対策会議を行いました。まず、同日1日の動きと現地の状況が報告され、今後必要になってくることについて、今後の動きについて話し合いました。支援物資については上記の必要な物資を集めてこの週の金曜日に厚真町役場へ運ぶことが確認されました。それ以外は当面様子見で必要に応じて札幌から運ぶことになると思います。厚真町へはだいぶいろいろな物が入ってきている感じですが町によって生活用品や食料などが不足しているところもあります。また、厚真町役場では、役場の方々がかなりしっかり避難所について運営しており、外部団体が入って行ってなにかできるのか不透明な部分もあるため、しばらくは週に2回、札幌から厚真町役場へ通い、現地の状況把握や何かできることはないか伺い、関係性をつくっていくことを細く長く行っていくことを確認しました。久世先生より、奥尻島沖地震の際、山本光一先生（現千葉京葉中部教会）が20年間奥尻島の被災地を支援し続け、奥尻島の方から「最後まで寄り添ってくださったのが教団さんだ」と言われた話をしてくださいました。“細く長く”支援を続けていくことを確認しました。また、あらためて北海教区内の教会、伝道所の被災（被害）状況を把握することに努め、ブログによって教区内外に北海教区の状況をお伝えしていくことが確認されました。また、被害状況の調査や修繕に費用がかかることも見越して献金の呼びかけも行なっていくとのことでした。教団からは雲然俊美書記が慰問に来られる予定との報告がありました。他教区、カナダ合同教会、台湾基督長老教会などからも祈りとメッセージが北海教区に寄せられていることも報告されました。

ちなみに、札幌では地割れや液状化現象、地盤沈下など見られますが、数日続いた停電は解消されています。しかし、北海道内ではまだ停電している町もあり、北海道全体の電力を満身に補うことがまだできないため、計画停電や省エネ対策がいろいろ考えられています。コンビニやスーパーは開いているところもありますが、食品が品薄の店もまだまだ多くあります。ガソリンは当初入手困難で、開いているガソリンスタンドに2時間以上待ち、10～20リッター限定の給油が行われていたようですが、ガソリンの不足は解消されたようです。

11日（火）も4人（北海教区から2人、SCFから2人）が厚真町を訪問することになりました。

### 9月11日（火）

北海教区の被災支援部隊は本日も厚真町へ午後から行くことになっています。私は17時の小樽発新潟行きのフェリーに乗るため、今日は残念ながら北海教区の皆さんと一緒に行動ができません。ということで、1人で慰問に行くことにしました。まず、月寒教会の付帯施設、しののめ幼稚園へ向かいました。月寒は札幌市内で被害の大きかった清田区に近い場所にあります。今年の5月に札幌に帰省した際、しののめ幼稚園を見学させていただいたこともあり、月寒教会やしののめ幼稚園が大丈夫か案じていました。幸い、教会も幼稚園も大きな被害はなかったとのことでした。しかし、月寒教会の向かいあるローソンに入ってみると、食品類はほとんどありませんでした。場所によって少しずつ物が増えているところと、物があまり入っていない場所があるようです。しののめ幼稚園の皆さんにお尻拭きやペットボトルの飲み物、お菓子などをお渡ししました。それから札幌市内をしばらく車で走り、市内の様子を見て回りました。少しずつですが、コンビニやスーパー、ファミレスなども営業を再開しています。しかし、不足している物もまだまだあります。午後は札幌北光教会の付帯施設、北光幼稚園を訪問しました。北川園長、指方愛子先生が迎えてくださいました。北光幼稚園もタイルが少し取れて、園庭の木が倒れかけたという被害に留まっているようです。数日の休園により、この日、運動会の総合練習をぶっつけ本番で行ったようで、同じ付帯施設で働く者として地震の影響がいろいろなところで出ていて大変だなあと感じました。お尻拭きシート、お菓子やペットボトルの飲み物をお渡ししました。次に江別にある元江別わかば幼稚園へ向かいました。元江別わかば幼稚園は、札幌北光教会の教会員さんが園長を勤める幼稚園です。被害はないとのことでしたが、紙オムツなどが不足しているとのことだったので、いろいろなサイズの紙オムツを6箱とお尻拭きシートを3箱、お菓子とペットボトルの水やお茶などを置いてきました。教会とは直接関係している幼稚園ではないので、どこから支援が届くということが無いらしく、支援物資をととても喜んでくださいました。次に高速道路で千歳へ移動し、千歳栄光教会を訪問しました。前日に杉岡ひとみ先生がFacebookで千歳で食品関係が品薄、という状況をアップしてくださっていたので、食

品類をお届けすることにしました。ト部康之先生、杉岡先生にお会いすることが出来、お尻拭きシートやレトルト食品、懐中電灯やお菓子、ペットボトルのお茶などをお渡ししました。その後、杉岡先生から「千歳栄光教会の幼稚園の先生にレトルト食品などを配ると、近場のコンビニやスーパーに食品類が品切れ状態で、支援物資をととても喜んでおられた」との連絡が入りました。千歳栄光教会では会堂にひび割れなど被害も出ています。千歳から高速道路に乗り、小樽まで走り、小樽港から新日本海フェリーに乗りこみ、新潟へ向かいました。

## 9月12日（水）

9時15分に新潟港に到着しました。その足で新潟教会へ行き、長倉望先生に北海道の被災地の様子や北海教区の動きなどをご報告しました。新潟中央 IC から高速に乗り、前橋教会に立ち寄り、川上盾群馬地区長に被災地の様子や北海教区の動きなどを報告しました。今回、私が北海教区から要請のあった支援物資を群馬で購入し、北海道へ届けさせていただきましたが、これまで被災地で何度も支援してこられた長倉望先生と新井純先生からたくさんアドバイスをいただきました。また、支援活動を行うのに必要なお金の面を準備すべく、長倉望先生と川上盾先生が各地区や関東教区常置委員会で動いてくださいました。関東教区常置委員会も積極的に支援をしてくださることになったとの報告を嬉しく思います。

今回、北海道の被災地を支援するにあたり、北海教区の仲間と連絡を取り合い、先輩牧師やSCF、地区や関東教区などいろいろな人と連絡を取り合いながら動きました。あらためて有事にはチームワークが大切になることを再確認しました。だからこそ、日常からいろいろな人との繋がりを大切にしていきたいと思われました。

15時30分に桐生に到着し、無事レンタカーを返却しました。今回、限られた時間だったのでたくさんの方々にお会いすることはできませんでした。足を運びたい場所、顔を見て励ましの言葉をかけたい人がまだまだたくさんいます。帰りのフェリーでも北海道で震度4の地震があったことを見て、心が痛みました。また16日（日）に北海道へ行きます。

### ・感想

この夏、日本各地で自然災害による被害がありました。西日本の豪雨、台風の被災地のことも気になります。被災地の皆さまの復興への歩みを教団につながる教会の皆でお支えできればと思います。

私は、札幌出身ということ、北海教区にたくさんの知り合いがいるということで地震が発生した早朝から小西幹事や北海教区の皆さんと連絡を取り合い、何かお役に立てることがないかと考え、当時、北海道で物資が不足していたため、群馬で物資を買い揃え、北海道へ運ぶという支援を行ないました。この支援を行うにあたり、過去のいろいろな

災害で被災された経験、支援をされた経験のある方々、また関東教区内から遠く離れた北海道を思い、祈りと何か支援したいという方々の思いに支えられ、後押しされた“みんなの支援”になったように思います。たくさんの支援物資を購入する際、あまりの量にレジで驚かれもしましたが、「北海道の被災地へ支援物資をとどけるのです」と言うと、お店の方が「手伝います！」と真剣な顔で荷物を車まで運んでくださるということが何度かありました。みんなが北海道へ行けないまでも、被災地を心から心配してくださるのだと北海道出身の私も胸が熱くなりました。被災地の状況、ニーズは日々刻々と変わっていきます。しっかりと被災地にある方々と連携、連帯し、祈りと共にできる支援を皆で担い合っていきたいと思います。報道などでは建物や道路の状況、ライフラインや店の品揃えなどで「この町は大丈夫!」、「この町の被災状況は大変」と言われます。しかし、北海道全体が大きな地震に見舞われ、今も余震が続き、物の不足や幼稚園や学校の休校などにより非日常生活の中で被災された方々の心の復興にはまだまだ時間がかかります。「大丈夫」と言えるにはまだまだ時間と手厚い支援が必要だということ、被害の大きかった地域を支援しようと奔走する北海教区の皆さんひとりひとりが被災者なのだ、という視点を忘れずにいたいと思います。また、桐生東部教会も東日本大地震の時には全国の教会をはじめ、たくさんの方々にお支えいただきました。今度は何かお手伝いさせていただく側として、被災地の状況をたくさんの方々にお伝えし、しっかり支援の輪を広げていきたいと思います。

9月16日(日)から19日(水)に北海道へ行きますが、17日(月)に北海教区が安平町で炊き出しを行うことになっています。私もそのお手伝いをさせていただくことになっています。16日からの被災地支援は群馬地区から交通費などお支えいただくことになっています。

今回の支援では、支援物資購入や交通費など支出が多くなってしまいましたが関東教区の皆さまにお支えいただけますことを心より感謝致します。これからも北海道や西日本で支援が継続的に必要になってくることと思います。祈りと共に被災された方々に寄り添い続けることができる私たちでありたいと願います。

2018年9月13日

(文責：三浦 啓 / 桐生東部教会)

※ 三浦先生の活動にかかった費用は関東教区の災害対応支援委員会費、また北海教区への見舞金は50万円を関東教区の災害援助金特別会計より送っています。